

要 覧



内水面水産試験場

Inland Water Fisheries Experiment Station

〒969-3283 福島県耶麻郡猪苗代町大字長田字東中丸3447-1
TEL 0242-65-2011 FAX 0242-62-4690
HP <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37400a>
E-Mail naisuimen@pref.fukushima.lg.jp



1 沿革

本県における内水面漁業は、内陸部の阿賀川、阿武隈川水系の二大河川や海岸部の河川、さらには猪苗代湖などの天然湖沼、全国有数の水力発電県として造成された多くの人工湖などの地域環境に応じて、サケ、イワナ、ヤマメ、ヒメマス、湖沼型サクラマス、アユ、ウグイ、ワカサギと幅広い魚種を生産する河川・湖沼漁業と、2,000余に及ぶ灌漑ため池を利用して全国上位の生産を誇る食用鯉養殖と豊富な湧水等を利用したマス類の養殖による産地を形成している。これらの漁場は、自然条件の変化や地域開発などによる影響が極めて大きく、さらには内水面における多面的な水産開発が要請されるため、総合的な試験研究と併せて内水面漁業の振興を図るため、会津若松市にあった施設を昭和51年10月に猪苗代町に移転し、業務を行っている。

年次	試験場関連事項	内水面漁業関連事項
M15		安積疎水完成
M21		磐梯山爆発:裏磐梯湖沼群形成
M35	いわき市小名浜に水産試験場設置	コイ仔魚頒布、水田養殖試験、マス類試験、ワカサギ試験、猪苗代湖調査等
M37		相馬新田川で、さけ孵化事業開始
M41	耶麻郡長瀬村川桁に、寒天事業と鱒類池中養殖及び人工孵化事業の為、分場を設置	
	磯部養魚場廃止	
T8		稚鮎移植試験
S8	ダム建設に伴う魚族補填のため、電源開発企業が設置した施設を譲り受け、県営会津養魚場を開設	
S10	月輪孵化場閉鎖	西郷村の林養魚場事業開始
S11	水産試験場新築移転	
S33	会津養魚場を増改修、下郷町左走到にマス類生産分場を増設し、内水面水産試験場を設置	
S34,35		奥只見、田子倉ダム完成
S40	猪苗代町刈屋沢に鱒ふ化場増設 福島市瀬上の信夫養魚場、水産課から移管	
S45	信夫養魚場廃止	
S51	内水試、現猪苗代町に移転。本場移転に伴い、左走分場廃止	
S63		コレゴヌス種苗を導入
H5	バイテク棟を増設	
H7		外来魚(ブラックバス)問題化
H8		猪苗代湖の中性化始まる。アユ冷水病発生。
H9	マス類種苗生産業務見直しに伴い、刈屋沢ふ化場廃止	河川法改正:目的に「河川環境の整備と保全」付加
H11		コレゴヌスを会津ユキマスと命名
H14		カワウによる漁業被害広がる
H16		KHVD(コイヘルペスウイルス病)発生
H17		オオクチバス、コクチバス、ブルーギル、チャネルキャットフィッシュを特定外来生物に指定する政令が施行された。

年次	試験場関連事項	内水面漁業関連事項
H18		国交省「多自然川づくり」へ移行。カダヤシ、ウチダザリガニを特定外来生物に指定する政令が施行された。
H23	放射能関連の調査、試験に着手。	東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏洩事故によって、浜通りの水産施設は大被害を受け、また、広範囲の県内河川・湖沼の生息魚に採捕禁止措置がとられた。
R2	コロナウィルス感染症流行により参観デーの開催中止	
R4	参観デー再開	アメリカザリガニを条件付き特定外来生物に指定する政令が施行された。

2 施設の概要

敷地 37,930㎡

本館 RC 2 階建 811㎡（事務室、会議室、図書資料室、実験室4、アクアトロン室、暗室、自家発電室、ボイラー室、受変電施設）

付属施設 車庫・艇庫、温度調整試験棟、採卵棟、ふ化棟、稚魚棟、産卵調整棟、バイオテクノロジー研究棟、餌料・器材倉庫

試験池・飼育池 121面 7,735㎡ 温水魚系試験地64面
冷水魚系試験地57面

3 本場平面図



4 本館平面図



5 組織及び職員数（令和6年4月）

場長（1名：研究職）	┌	事務部（2名：事務職2名）
		生産技術部（3名：研究職3名）
		調査部（4名：研究職4名）

6 業務（福島県行政組織規則）

- (1) 内水面水産資源の保護増殖に係る試験研究及び調査に関すること。
- (2) 淡水魚の増養殖に係る試験研究及び指導に関すること。
- (3) 漁場環境に係る試験研究に関すること。
- (4) 魚類の疾病に係る試験研究及び指導に関すること。
- (5) 水産種苗の生産技術開発に係る試験研究及び調査に関すること。
- (6) 放射性物質に係る試験研究及び調査に関すること。

7 福島県の内水面漁業・養殖業の現状

(1) 内水面漁業

- ① 漁業権免許件数：第2種区画漁業権 27件（ため池等でのコイ等養殖）※R6.1更新
第5種共同漁業権 28件（河川湖沼での漁業・遊漁）※R5.9更新
- ② 内水面漁協組合員数：12,427名（令和5年）
- ③ 内水面漁業漁獲量：5トン（令和4年）

(2) 内水面遊漁（遊漁券発行枚数）

項目	H22	H30	R1	R2	R3	R4
年券（枚）	9,862	5,252	5,083	5,149	6,997	7,265
日券（枚）	114,236	101,092	97,717	78,827	112,104	124,195
遊漁料（千円）	167,690	120,812	117,125	105,696	146,187	160,905

(3) 内水面養殖業（令和4年）

魚種名	経営体数	収穫量(t)	順位	全国(t)
ニジマス	15	315	4位	4,462
マス類その他		105	5位	2,068
コイ	3	646	2位	2,027
合計	16	1,087	7位	31,503

8 令和7年度の主な研究課題（令和7年4月）

(1) 生産技術部

- ・ 養殖技術の確立（マゴイ初期餌料）
- ・ 高付加価値魚作出技術の開発（イワナ、ヤマメ）
- ・ 種苗生産技術企業化試験（ウグイ）
- ・ 魚病、養殖技術指導

(2) 調査部

- ・ アユ、ワカサギ等増殖技術の開発、指導
- ・ 漁場環境の評価（魚道機能、魚類相調査、外来魚駆除技術の指導）
- ・ 内水面漁業における情報収集・配信システム実証
- ・ 福島県内水面漁業の復活に向けた種苗生産・供給技術に関する社会実装（アユ）

(3) 放射能関連調査

- ・ 水産物緊急モニタリング調査
- ・ 魚類の放射性セシウムの取込・排出条件に関する試験
- ・ 河川・湖沼における放射性物質移行経路の解明調査
- ・ 帰還困難区域等の河川に生息する魚類の放射能調査
- ・ 湖沼の魚類の放射能調査及び研究

9 令和6年度の研究成果

(1) 放射線関連試験研究成果

- ・ RCI 簡便算定法による支流の溪流魚の ^{137}Cs 濃度

(2) 普及に移しうる成果

- ・ 伊南川水系の土砂流入影響調査

(3) 参考となる成果

- ・ マゴイにおけるウイルス性コイ浮腫症の発生事例
- ・ 計量魚群探知機を用いた魚群数推定の試み
- ・ アユの天然魚と放流魚における漁期中の割合変化

10 試験場内飼育魚・継代親魚（令和7年4月現在）

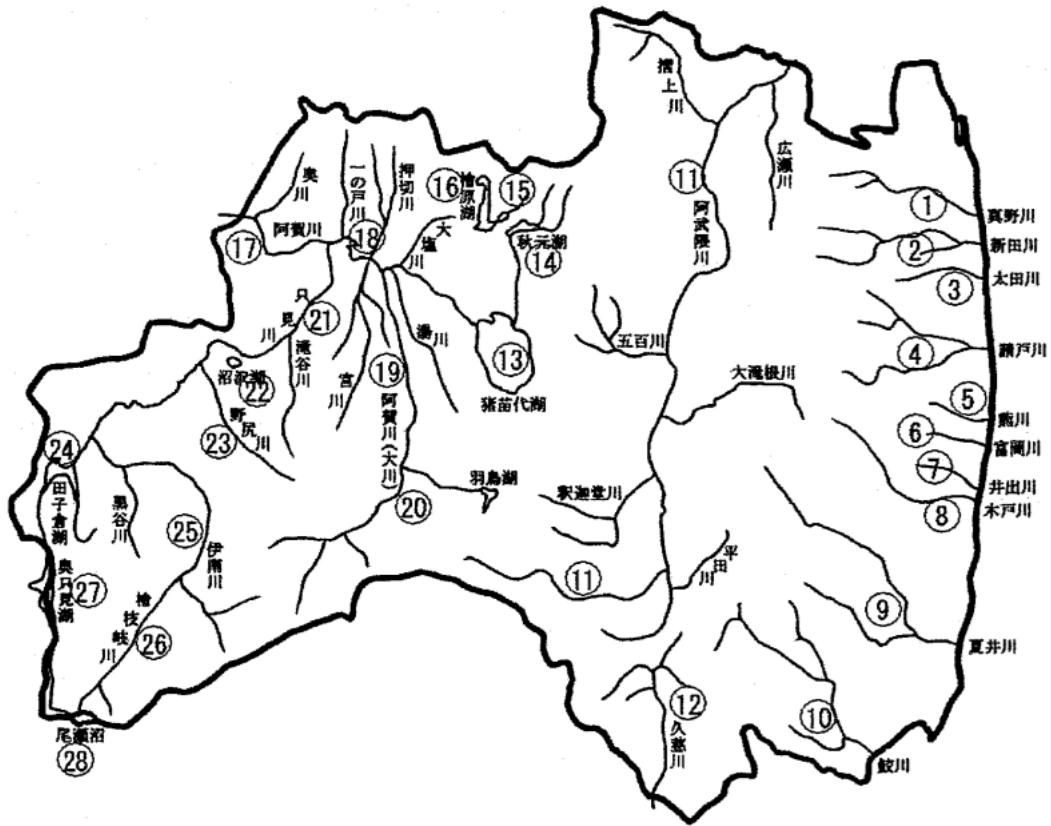
(1) サケ・マス類

- ・ イワナ
- ・ ヤマメ
- ・ ニジマス
- ・ コレゴヌス

(2) コイ科魚類

- ・ コイ
- ・ フナ類
- ・ ウグイ

県内の主要河川、湖沼と増殖対象魚種



① 真野川	コイ、フナ、アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ、ウナギ、モズガニ	⑮ 小野川湖	コイ、フナ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ
② 新田川	コイ、フナ、アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ウナギ	⑯ 椋原湖	コイ、フナ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ
③ 太田川	コイ、フナ、アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ、ウナギ	⑰ 阿賀川	コイ、フナ、ウグイ、イワナ、ヤマメ
④ 請戸川	コイ、フナ、アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ、ウナギ、モズガニ、カエビ	⑱ 阿賀川	コイ、フナ、ウグイ、イワナ、ヤマメ
⑤ 熊川	アユ、ウグイ、ヤマメ	⑲ 大川	アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ、ウナギ
⑥ 富岡川	アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ウナギ	⑳ 大川	アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ
⑦ 井出川	アユ、イワナ、ヤマメ	㉑ 只見川	コイ、ウグイ、イワナ、ヤマメ
⑧ 木戸川	コイ、アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ウナギ	㉒ 沼沢湖	ヒメマス
⑨ 夏井川	コイ、フナ、アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ウナギ	㉓ 野尻川	アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ
⑩ 鮫川	コイ、フナ、アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ウナギ	㉔ 田子倉湖	コイ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ
⑪ 阿武隈川	コイ、フナ、アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ、ウナギ	㉕ 伊南川	アユ、ウグイ、イワナ、ヤマメ
⑫ 久慈川	コイ、アユ、ウグイ、ヤマメ、ウナギ	㉖ 檜枝岐川	イワナ、ヤマメ
⑬ 猪苗代湖	コイ、フナ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ	㉗ 奥只見湖	コイ、フナ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ
⑭ 秋元湖	コイ、フナ、ウグイ、イワナ、ヤマメ、ワカサギ	㉘ 尾瀬沼	イワナ、ヤマメ



交通

◎自動車

磐越自動車道 猪苗代・磐梯高原インターより約7km

◎電車

磐梯西線猪苗代駅下車 タクシー 約10分